

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ファーストステップ東成		
○保護者評価実施期間	令和8年1月22日		～ 令和8年2月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和8年1月22日		～ 令和8年2月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月6日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所内は常時、整理整頓や清掃を行い清潔で安全な空間となっている。	転倒や衝突などが起こらないように危険と思われる場所にはクッション材を使用している。感染症が多い時期は特にアルコール消毒など徹底している。	子どものニーズに合わせ危険がないように細かなことも職員間で共有を行う。必要に応じて環境を見直し整えていく。
2	保護者や関係機関等と連携をこまめにとっている。	子どもの様子や成長など、日々の連絡帳を通じて保護者にわかりやすく報告している。また、園にも訪問し子どもの課題や支援方法など共有を行い、保護者、園、当事業所で共通認識を持ち支援している。	引き続き保護者への報告や連絡は迅速に正確にお伝えを行う。就学前のお子様に関しては保護者同意のもと、就学先に積極的に情報共有を行う。
3	個別支援計画に基づき支援を行っている。子どもの最善の利益を尊重して日々の療育プログラムを計画し実行している。	療育内容や子どもの様子、課題と支援については朝礼で時間を取り全員で共有している。必要に応じて車内で共有し、より良い支援を行えるように意識している。	今後も子どもの様子に合わせて支援を行う。必要に応じて個別支援計画の内容も更新していく。研修などにも積極的に参加し、職員全員で子ども理解や支援方法を学んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	窓が少なく換気がしにくい環境となっている。	嘔吐や発熱などがあった際に感染症対策として換気の対応が必要。	感染症蔓延防止にむけ、玄関の扉を開け換気する。必要に応じてパーティションなどを利用して空間を仕切る。
2	職員の人数確保。	職員数が少なく、体調不良等の急な休みの対応が困難。日々の療育活動の中でも職員数の不足を感じる。	安全で安定感のある療育が行えるように職員増員を目指す。送迎業務などにおいても運転手の欠員が出た際には迅速に代替りのドライバーをお願いする。
3	他事業所が遠く連携などが取りにくい。	他事業所が遠く、職員のヘルプ要請や相談など少し困難な状況もある。	職員数の確保。またウェブ会議などで他店の共有等を伺い把握する。相談があればその場で質問する。